

平成29年度 学校評価表【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念(ミッション・ビジョン)  
 自ら夢を持ち、国籍も言葉も違う人々が集う未来社会を、世界的な難題解決に向けて話し合い他者と協調し協働して生きていくことができる力をつける。  
 ○育てたい資質・能力(知識・情報、コミュニケーション能力、耐える力、思いやり)  
 ○グローバルマインド(強い意志、思いやり、郷土愛)の育成

<学校教育目標>  
 すすんで きたえ みがき のびる  
 (社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子供の育成)  
 <めざす学校像>  
 ○すすんで ……子供の主体性を伸ばす学校  
 ○きたえ・みがき ……個々の持ち味を發揮させる学校  
 ○のびる ……得意なことを引出し、自信を持たせる学校

<甲奴中学校区のめざす子供像>  
 「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供」  
 <甲奴小のめざす子供像>  
 ☆自分が好き ……夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供  
 ☆友だちが好き ……友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供  
 ☆甲奴が好き ……身の回りに目を向け、甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子供

評価計画				自己評価									学校関係者評価			
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	7月			12月			結果の分析	改善策	評価	コメント		
					達成 値	達成 度	評価	達成 値	達成 度	評価						
確かな学力の育成 「知識・情報 コミュニケーション 能力」の育成	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・初任研の示範授業を生かし、相互に授業を見合うことによる授業力の向上 ・パワーアップタイムの充実(内容・指導の工夫) ・家庭学習習慣(開始時刻・学習時間・学習内容)の確立	・評価テスト(国語)で正答率が到達度得点を超える児童の割合【小川】	80%	86.5%	108%	A	77%	96%	B	読書計画に沿って取り組みを行った結果読み取る力がついた。しかし、算数科においては、計算ミスがあった。(7月)	国語科では、読書を継続し読む力をつける。漢字学習の充実を図る。パワーアップタイムを利用して基礎計算の学習に取り組む。数多の問題に触れさせる。家庭学習の習慣化を身に付けさせる。(7月) 日記指導の充実を図り、書く習慣をつけさせる。多く文章題に触れ、問題に慣れさせる。(12月)	3.3	到達度得点を超える児童の割合は限りなく100に近づけないといけない。改善策の結果を検証し来年度へつなげてほしい。 中学校と課題は共通しているので小中で取組を進めていく。		
			・評価テスト(算数)で正答率が到達度得点を超える児童の割合【小川】	80%	70%	88%	B	72%	90%	B	読書計画に沿って取り組みを行った結果読み取る力がついた。しかし、算数科においては、計算ミスがあった。(7月)					
			・「対話」のある授業に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【浜井】	80%	97%	121%	A	95%	118%	A	昨年度に引き続き道徳の実践と、やり取りを意識した外国語活動を行った結果の表れと考える。(7月) 「対話」を意識した切り返し発問の精選が授業の質を高めていると考えられる。(12月)					
			・「対話」のある授業づくりに関する教職員アンケート結果(4段階評価の平均値)【浜井】	80%	82%	103%	A	83%	104%	A	昨年度に引き続き道徳の実践と、やり取りを意識した外国語活動を行った結果の表れと考える。(7月) 「対話」を意識した切り返し発問の精選が授業の質を高めていると考えられる。(12月)					
豊かな心の育成 「思いやり」を育てる	○対話のある授業づくりによる考える力の育成	・外国語活動における「聴き合い、伝え合う」場面を設定した単元づくり及び授業実践 ・「特別の教科 道徳」における、「対話」の場面を設定した授業づくり	・外国語でのコミュニケーションに関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【信田】	90%	100%	111%	A	92%	115%	A	高学年を中心に単元ゴールを明確にした授業展開が行えるようになった。(7月) 単元ゴールを明確にした授業づくりが定着してきた。公開研究会も無事終了し、教職員は新学習指導要領を踏まえた授業の展開のイメージがもてた。(12月)	中学年・低学年でも単元ゴールを明確にした授業展開が行えるようになる。(7月) 引き続き、単元ゴールを明確にした授業づくりをしていく。また、児童に苦手意識を持たせないための工夫や理解を深める授業展開等を今後も検討していく。(12月)	4	教職員間で授業を高め合い、授業の質が高い。 「対話」を積極的に進める児童の姿が見られる。		
			・外国語活動における主体的な学習を継続させるための単元づくり及び授業実践 ・外国語活動における次期学習指導要領を踏まえた教育課程の立案	・外国語でのコミュニケーションに関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【信田】	80%	79%	99%	B	93%	116%	A	高学年を中心に単元ゴールを明確にした授業展開が行えるようになった。(7月) 単元ゴールを明確にした授業づくりが定着してきた。公開研究会も無事終了し、教職員は新学習指導要領を踏まえた授業の展開のイメージがもてた。(12月)				
			・「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関するアンケートで、肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見とり評価【山下】	あいさつ 掃除 集合	80%	63%	79%	C	82%	102%	A	児童会の呼びかけにより無言清掃・無言集合が定着してきた。あいさつには、個人差が見られる。(7月) 職員全員の徹底指導により、あいさつ・無言集合が定着しつつある。学級掃除での掃除のしかたの指導により、質が上がってきた。(12月)				
			・「思いやりの心」に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合	80%	95%	119%	A	100%	125%	A	児童会活動の数は、目標値を達成した。しかし、人を傷つけた、心証を害する言動が未だ見られるのが課題である。(7月) 校内一丸となって「嫌な思いをすする人はいない学校づくり」に取り組んだ成果と考える。(12月)					
豊かな心の育成 「思いやり」を育てる	○規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集合	・一斉下校・朝会時等における全体指導 ・「あいさつ名人」の認定ホルダーの活用 ・児童会掲示板による評価	・「思いやりの心」に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合	80%	95%	119%	A	100%	125%	A	児童会活動の数は、目標値を達成した。しかし、人を傷つけた、心証を害する言動が未だ見られるのが課題である。(7月) 校内一丸となって「嫌な思いをすする人はいない学校づくり」に取り組んだ成果と考える。(12月)	3.6	重点指導事項を明確にした取組が進められている。 地域におけるあいさつはさらに求められる。			
			・「思いやりの心」育成に関する教職員アンケート結果(4段階評価の平均値)	3.2	82.5%	103%	A	100.0%	125%	A	児童会活動の数は、目標値を達成した。しかし、人を傷つけた、心証を害する言動が未だ見られるのが課題である。(7月) 校内一丸となって「嫌な思いをすする人はいない学校づくり」に取り組んだ成果と考える。(12月)					
			・ランランタイムの充実 ・水泳記録会・マラソン大会の自己目標の設定 ・なわとびカードによる技能目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果、県平均を上回る項目の割合(11月時点)【長手】	60%	76.0%	127%	A	84.4%	141%	A			・1学期結果から課題項目を明確にし、改善に取り組んだ成果が出た。(7月) ・水泳記録会90.5%、マラソン大会82.4%、総合86.5%となり、目標値を上回った。個人目標に応じた支援やアスリートによる長距離走指導をしていたのだが、A評価につながった。(12月)	4	言葉遣いの課題を適時に全教職員が指導する取組が有効に行われている。 継続した生徒指導の取組が求められる。
			・自己目標を達成した児童の割合(アンケートによる見取り)【長手】	80%	66.7%	83%	B	87%	108%	A	・1学期結果から課題項目を明確にし、改善に取り組んだ成果が出た。(7月) ・水泳記録会90.5%、マラソン大会82.4%、総合86.5%となり、目標値を上回った。個人目標に応じた支援やアスリートによる長距離走指導をしていたのだが、A評価につながった。(12月)					
・アンケートによる実態把握 ・朝食・睡眠指導	・朝食・睡眠に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【村上・出口】	70%	89%	127%	A	88%	125%	A	規則正しい生活習慣が確立されつつあるが、個別に見ると課題のある児童がいる。(7月) 昼食を待つための調整により休日生活が乱れてしまうことが明確になった。保護者との信頼関係づくり、PTAとの連携による多方面からの啓発等、粘り強い取組が必要である。(12月)							
・保護者と連携した「ストップ9」の取組(啓発資料・情報の学期2回以上の発信・児童への指導の充実)	・ストップ9を達成した児童・家庭の割合(保護者アンケート)【教頭】	75%	75%	100%	A	79%	105%	A	2学期からも引き続き指導(学級及び個別指導)と保護者啓発を行い、2学期末に再度調査を行う。(7月) 新に始まった保護者啓発生徒生活、入学説明会、新入生保護者に向けての啓発を行い意識づけする。(12月)							
健やかな体の育成	自ら目標を持ち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	・ランランタイムの充実 ・水泳記録会・マラソン大会の自己目標の設定 ・なわとびカードによる技能目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果、県平均を上回る項目の割合(11月時点)【長手】	60%	76.0%	127%	A	84.4%	141%	A	・1学期結果から課題項目を明確にし、改善に取り組んだ成果が出た。(7月) ・水泳記録会90.5%、マラソン大会82.4%、総合86.5%となり、目標値を上回った。個人目標に応じた支援やアスリートによる長距離走指導をしていたのだが、A評価につながった。(12月)	4	昨年度と比較しても、体力が向上しており、課題を明確にした取組が適切であることが分かる。			
			・自己目標を達成した児童の割合(アンケートによる見取り)【長手】	80%	66.7%	83%	B	87%	108%	A	・1学期結果から課題項目を明確にし、改善に取り組んだ成果が出た。(7月) ・水泳記録会90.5%、マラソン大会82.4%、総合86.5%となり、目標値を上回った。個人目標に応じた支援やアスリートによる長距離走指導をしていたのだが、A評価につながった。(12月)					
			・アンケートによる実態把握 ・朝食・睡眠指導	・朝食・睡眠に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【村上・出口】	70%	89%	127%	A	88%	125%	A			規則正しい生活習慣が確立されつつあるが、個別に見ると課題のある児童がいる。(7月) 昼食を待つための調整により休日生活が乱れてしまうことが明確になった。保護者との信頼関係づくり、PTAとの連携による多方面からの啓発等、粘り強い取組が必要である。(12月)		
			・保護者と連携した「ストップ9」の取組(啓発資料・情報の学期2回以上の発信・児童への指導の充実)	・ストップ9を達成した児童・家庭の割合(保護者アンケート)【教頭】	75%	75%	100%	A	79%	105%	A			2学期からも引き続き指導(学級及び個別指導)と保護者啓発を行い、2学期末に再度調査を行う。(7月) 新に始まった保護者啓発生徒生活、入学説明会、新入生保護者に向けての啓発を行い意識づけする。(12月)		

(自己評価) 達成度=達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60  
 【関係者評価】 4:自己評価は適正である 3:ほぼ適正である 2:やや改善の必要がある 1:改善の必要がある 0:わからない